

令和 2 年度実施

(2020 年度実施)

卒業生アンケート

調査報告書

令和 3 年 (2021 年) 6 月

別府大学短期大学部 FD 委員会

はじめに

卒業生アンケートは、調査開始当初は、3年毎に調査を実施してきましたが、平成29年度からは毎年調査を行うことにし、次年度の教育内容の改善に役立てております。

2020年度は、2016年度・2018年度の卒業生を調査対象としました。

卒業生アンケートは、FD委員会が担当し、卒業生が在学中に受けた教育の満足度についてアンケート方式で調査をし、その結果を今後の教育の方針や在り方の改善に役立てることを目的としています。

私たちは、本調査の結果から、ディプロマ・ポリシーの達成度を評価し、具体的な課題を見出していきたいと考えています。

そこで、アンケートの設問内容は、ディプロマ・ポリシーに基づいて、①教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）、②専門力（専門に関する基本的な知識、技能）、③汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）について問うものとなりました。

これらの評価結果を分析し、『別府大学短期大学部アセスメント・ポリシー』に基づく卒業生アンケートの結果によるDP達成度評価も掲載することとしました。

これらの取り組みを通して、さらなる教育の内部質保証システムの確立につなげていきたいと考えています。

令和3年(2021年) 6月
別府大学短期大学部 FD 委員会

はじめに

目次

令和2年度卒業生・雇用主アンケート調査 実施要領	1
卒業生アンケート調査結果	
(1) 食物栄養科調査結果	3
(2) 初等教育科調査結果	9
「卒業生・雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価実施要領.....	16
食物栄養科「卒業生アンケート」の結果による DP 達成度評価	
1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）	19
2. 専門力（専門に関する基本的な知識、技能）	20
3. 汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）	22
初等教育科「卒業生アンケート」の結果による DP 達成度評価	
1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識・技能）	24
2. 専門力（専門に関する基本的な知識・技能及び態度）	25
3. 汎用力（社会で活用できる汎用性のある能力）	26

別府大学短期大学部 卒業生・雇用主アンケート実施要領

(目的)

第1条 学生の卒業後の進路・就職状況等から、在学中に身に付けさせる学力や資質・能力及びディプロマ・ポリシーに照らして教育の成果や効果を検証し、教育力の向上や改善に資することを目的とする。

(所轄部署)

第2条 当該調査に関する所轄部署は、学生事務部（担当部：キャリア支援課）とし、関連部署（FD委員会および就職委員会）と連携して行う。

(調査対象)

第3条 調査対象は以下の2つとする。

- (1) 本学を卒業した過年度の卒業生
- (2) 卒業生の就職先、学生が就職活動を行っている企業・団体等

(調査方法)

第4条 調査方法は以下の手順で行う。

- (1) キャリア支援課で送付先を抽出する。
- (2) 質問項目は、FD委員会および就職委員会でディプロマ・ポリシーを反映させ検討・作成する。
- (3) アンケート実施期間は、第2四半期から第4四半期の一定期間（10日間程度）を定め、対象者に送付する。
- (4) 送付方法は、郵送または対象者に届く効果的な方法にて送付する。
- (5) 回収方法は、インターネットやファックス等を用い、対象者が回答しやすい方法にて行う。

(集計・分析)

第5条 集計及び分析は下記の部署が担当し、企画運営会議へ報告する。

- (1) 卒業生・雇用主アンケートの集計は、キャリア支援課が担当する。
- (2) 卒業生アンケートの分析および報告書作成は、FD委員会が担当する。
- (3) 雇用主アンケートの分析および報告書作成は、就職委員会が担当する。

(公表)

第6条 企画運営会議は報告に基づき、教授会の儀を経て、年度内に大学ホームページに掲載公表する。

(その他)

第7条 調査方法や質問事項等については、本調査の目的を逸脱しない範囲で修正、変更等を行う。

以上

附 則

この要領は、令和3年4月21日から施行し、令和2年8月1日から適用する。

卒業生アンケート調査結果

(1) 食物栄養科調査結果【送付:110人、回収:22人、回収率 20.0%】

【I. はじめに基本事項についてお答えください。】

問1. あなたの卒業年月をお答えください。

卒業年月	回答数	割合
2015年9月	0	0.0%
2016年3月	5	22.7%
2017年9月	1	4.5%
2018年3月	16	72.7%
合計	22	100.0%

問2. 現在の職業（職種）をお答えください。

職業(業種)	回答数	割合
栄養士(給食委託業者)	3	13.6%
栄養士(病院、福祉施設、保育園等)	8	36.4%
事務(受付、窓口業務、経理等)	5	22.7%
製造・販売	1	4.5%
接客業	1	4.5%
専業主婦	1	4.5%
営業	1	4.5%
無職	2	9.1%
総計	22	100.0%

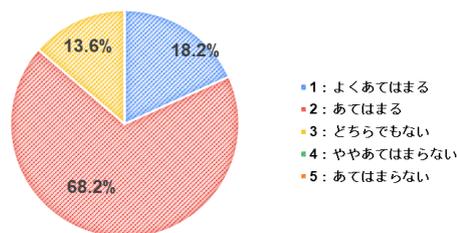
【Ⅱ. 別府大学短期大学部食物栄養科で受けた教育について、次の事項に5段階評価でお答えください。また、各事項に対して特記事項があれば、自由記述欄にご記入ください。】

[1:よくあてはまる 2:あてはまる 3:どちらでもない 4:ややあてはまらない 5:あてはまらない]

〈教養力（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）について〉

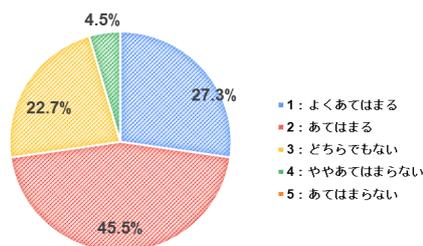
問3. 短期大学卒業に必要な知識・技能と幅広い思考力・判断力・表現力などの基礎的な教養は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1:よくあてはまる	4	18.2%
2:あてはまる	15	68.2%
3:どちらでもない	3	13.6%
4:ややあてはまらない	0	0.0%
5:あてはまらない	0	0.0%



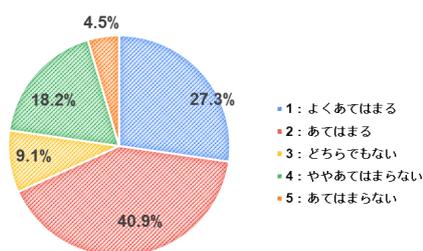
問4. 人間の探求や自然の摂理（心理学、生物学、化学）、社会の文化（法学、地域社会論）などの基礎的な教養は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1:よくあてはまる	6	27.3%
2:あてはまる	10	45.5%
3:どちらでもない	5	22.7%
4:ややあてはまらない	1	4.5%
5:あてはまらない	0	0.0%



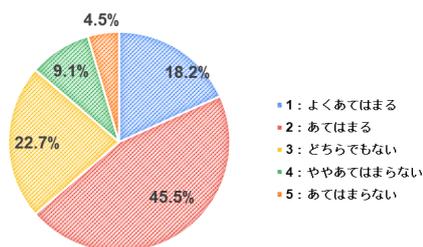
問5. 情報処理や外国語（情報機器論、英語）などの基本的なリテラシーは役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1:よくあてはまる	6	27.3%
2:あてはまる	9	40.9%
3:どちらでもない	2	9.1%
4:ややあてはまらない	4	18.2%
5:あてはまらない	1	4.5%



問6. 運動と健康維持・増進などの活動を実践する基本的な技能（保健体育）は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1:よくあてはまる	4	18.2%
2:あてはまる	10	45.5%
3:どちらでもない	5	22.7%



4：ややあてはまらない	2	9.1%
5：あてはまらない	1	4.5%

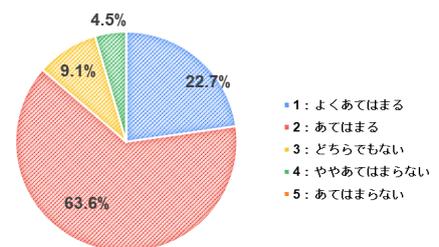
問7. どのような教養教育が社会に出た後に役立つと思いますか。ご意見を自由にご記入ください。

- ・ コミュニケーション力があり、メンタル面が強い方が社会に出てからより有利だと思います。
- ・ 委託会社に就職する人は大量調理を一人で副菜、主菜、汁の順番に仕上げるようにできると調理勤務の時に役に立ちます。盛り付け勤務ではフルーツの切り方を練習するのいいと思います。オレンジ、りんごなど。大量調理の人数の副菜を均等に盛り付けられるのいいと思います。
- ・ 税金関係の制度について、雇用に関わる法律や制度について
- ・ 勉強すること、学ぶ姿勢は学校でしか身につかないし、身につけないと社会に出てから苦勞をするから
- ・ 労働法や税金関係についての基礎知識、電話対応、来客対応

〈専門力（専門に関する基本的な知識、技能）について〉

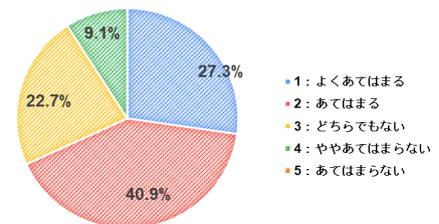
問8. 社会生活と健康について基礎的な知識は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	5	22.7%
2：あてはまる	14	63.6%
3：どちらでもない	2	9.1%
4：ややあてはまらない	1	4.5%
5：あてはまらない	0	0.0%



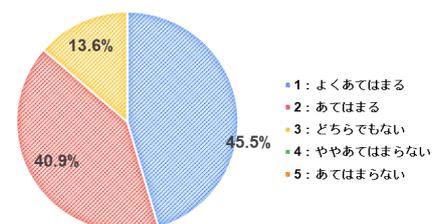
問9. 人体の構造と機能について基礎的な知識と、それに関する実験の技能は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	6	27.3%
2：あてはまる	9	40.9%
3：どちらでもない	5	22.7%
4：ややあてはまらない	2	9.1%
5：あてはまらない	0	0.0%



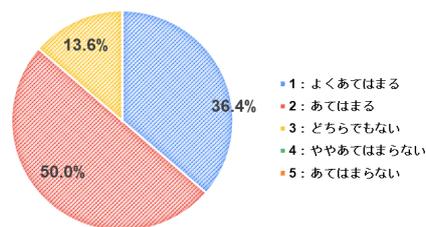
問10. 食品と衛生について基礎的な知識と、それに関する実験の技能や調理技術は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	10	45.5%
2：あてはまる	9	40.9%
3：どちらでもない	3	13.6%
4：ややあてはまらない	0	0.0%
5：あてはまらない	0	0.0%



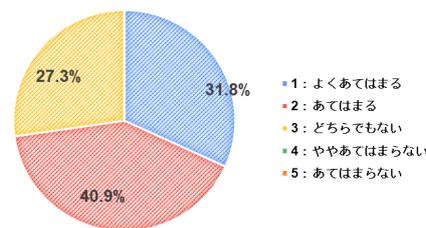
問 11. 栄養と健康について基礎的な知識と、それに関する実験の技能や調理技術は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1: よくあてはまる	8	36.4%
2: あてはまる	11	50.0%
3: どちらでもない	3	13.6%
4: ややあてはまらない	0	0.0%
5: あてはまらない	0	0.0%



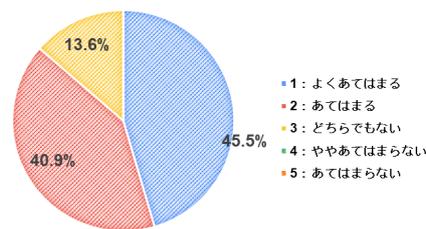
問 12. 栄養の指導について基礎的な知識と、それに関する実践的な技術は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1: よくあてはまる	7	31.8%
2: あてはまる	9	40.9%
3: どちらでもない	6	27.3%
4: ややあてはまらない	0	0.0%
5: あてはまらない	0	0.0%



問 13. 給食の運営について基礎的な知識と、それに関する実践的な技術は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1: よくあてはまる	10	45.5%
2: あてはまる	9	40.9%
3: どちらでもない	3	13.6%
4: ややあてはまらない	0	0.0%
5: あてはまらない	0	0.0%



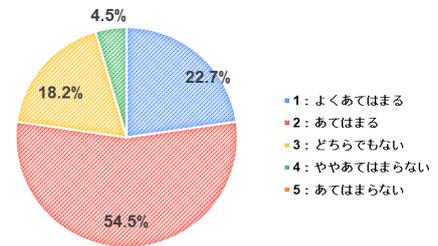
問 14. 実社会での経験を踏まえて学生時代を振り返ったときに、有意義だったと思う専門科目の授業がありましたらご記入ください。またその理由をご記入ください。

- ・ 栄養学全般 いま、妊娠中なのですが授業で学んでいたライフステージ別の食事など今となってはとても役立つ事だったと思います。
- ・ 栄養教育論
- ・ 学生の時は全然調理が出来なかったが、学生時より発想力に溢れ色々な料理が作れるようになったので調理の授業はためになったと思う。しかし、全く作れない包丁も持ったこともない学生もいるはずなので教科書を見て覚えなさいではなく実践的にもう少し切り方から丁寧に教えるべきだと思う。私はかなりバカにされ、恥ずかしかったので聞けず親に教わりほとんど家で練習した。
- ・ 生化学
- ・ 大量調理
- ・ 調理実習

〈汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）について〉

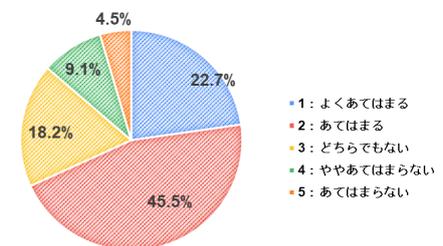
問 15. 【思考力】論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	5	22.7%
2：あてはまる	12	54.5%
3：どちらでもない	4	18.2%
4：ややあてはまらない	1	4.5%
5：あてはまらない	0	0.0%



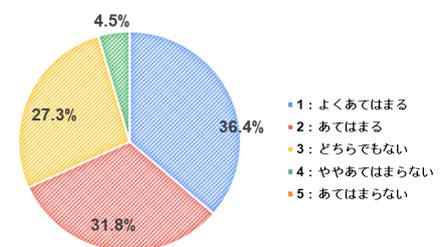
問 16. 【実行力】組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	5	22.7%
2：あてはまる	10	45.5%
3：どちらでもない	4	18.2%
4：ややあてはまらない	2	9.1%
5：あてはまらない	1	4.5%



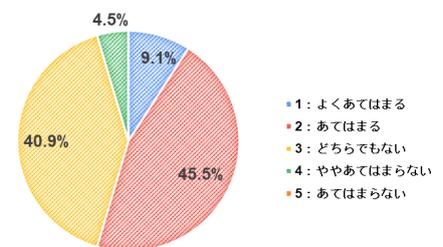
問 17. 【表現力】自分の考えを的確に文章或いは口頭で表現する力、場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、コミュニケーション力は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	8	36.4%
2：あてはまる	7	31.8%
3：どちらでもない	6	27.3%
4：ややあてはまらない	1	4.5%
5：あてはまらない	0	0.0%



問 18. 【情報力】我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心を持ち、図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	2	9.1%
2：あてはまる	10	45.5%
3：どちらでもない	9	40.9%
4：ややあてはまらない	1	4.5%
5：あてはまらない	0	0.0%



問 19. 実社会での経験を重ねた今、社会人として必要だと思うもの、短大時代に身につけておけば良かったこと、在学生に身につけて欲しいこと等について、ご意見を自由にご記入ください。

- ・ パソコンの基本操作(ウインドウズだけではなく MAC のパソコンも大学に何台か置いて欲しいかったです)
- ・ わからないことや気になることを質問する癖、人の話を聞く理解する姿勢。指導する立場になってから、それができない人を育てるのが大変だったから
- ・ 医師会の病院で栄養士をしてましたが、短大時代にちゃんとした生活リズムを身につけてアラーム等で起きれることを身につけておいた方がいいと思います。栄養士として働いていたことが違う業種に転職しても役立つこともあります。短大で学んだことを生かせる努力も必要だと思います。短大時代は課題・実習等、大変だとは思いますが、人生で1番濃い2年間だと思います。青春も楽しみつつ短大生活も楽しんでください！
- ・ 協調性を身につけて欲しい
- ・ 社会人として必要なのはコミュニケーション能力だと思います。
- ・ 情報、パソコン処理能力をもっと受けたかった
- ・ 調理技術
- ・ 調理実習
- ・ 内勤の仕事をしていますが敬語の使い分け、エクセルの知識、実践的な電話対応(外線、内線の使い方)は覚えておくと、どの職場でも使えると思います。税金や労働に関する基本的な法律や制度が勉強不足だったので学内でセミナー等あればよいかと思います。

問 20. その他、ご意見ご要望などございましたらご記入下さい。

- ・ 2年間ありがとうございました。
- ・ 図書の資格を取りたかったが、栄養士との両立は無理だと言われ諦めるように言われたのでそれにしがたがたが学生の視野を狭めるようなことは良くないと思う。

(2)初等教育科調査結果【送付:343人、回収:31人、回収率9.0%】

【I.はじめに基本事項についてお答えください。】

問1. あなたの卒業年月をお答えください。

卒業年月	回答数	割合
2015年9月	2	6.5%
2016年3月	14	45.2%
2017年9月	0	0.0%
2018年3月	15	48.4%
合計	31	100.0%

問2. 現在の職業（職種）をお答えください。

職業(業種)	回答数	割合
幼稚園教諭	1	3.2%
保育士	13	41.9%
保育教諭	3	9.7%
専門学校教員	1	3.2%
小学校臨時職員（事務）	1	3.2%
小学校教諭	8	25.8%
施設職員	3	9.7%
無職	1	3.2%
総計	31	100.0%

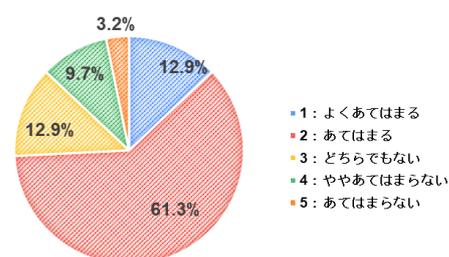
【Ⅱ. 別府大学短期大学部初等教育科で受けた教育について、次の事項に5段階評価でお答えください。また、各事項に対して特記事項があれば、自由記述欄にご記入ください。】

[1:よくあてはまる 2:あてはまる 3:どちらでもない 4:ややあてはまらない 5:あてはまらない]

〈教養力（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）について〉

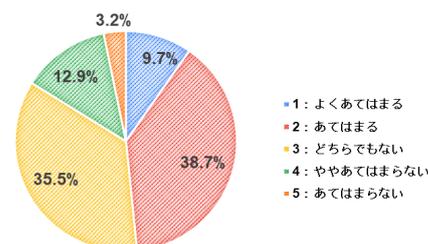
問3. 短期大学卒業に必要な知識・技能と幅広い思考力・判断力・表現力などの基礎的な教養は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1:よくあてはまる	4	12.9%
2:あてはまる	19	61.3%
3:どちらでもない	4	12.9%
4:ややあてはまらない	3	9.7%
5:あてはまらない	1	3.2%



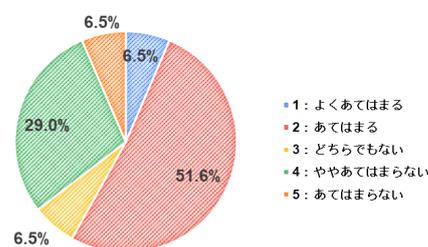
問4. 人間の探求や自然の摂理（心理学、哲学）、社会の文化（法学、地域社会フィールドワーク演習）などの基礎的な教養は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1:よくあてはまる	3	9.7%
2:あてはまる	12	38.7%
3:どちらでもない	11	35.5%
4:ややあてはまらない	4	12.9%
5:あてはまらない	1	3.2%



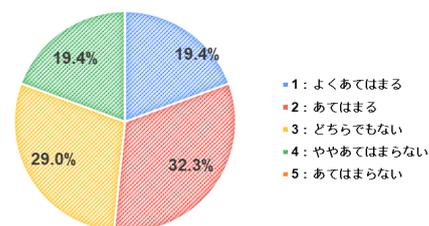
問5. 情報処理や外国語（情報処理基礎、英語、韓国語）などの基本的なリテラシーは役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1:よくあてはまる	2	6.5%
2:あてはまる	16	51.6%
3:どちらでもない	2	6.5%
4:ややあてはまらない	9	29.0%
5:あてはまらない	2	6.5%



問 6. 運動と健康維持・増進などの活動を実践する基本的な技能（保健体育）は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	6	19.4%
2：あてはまる	10	32.3%
3：どちらでもない	9	29.0%
4：ややあてはまらない	6	19.4%
5：あてはまらない	0	0.0%



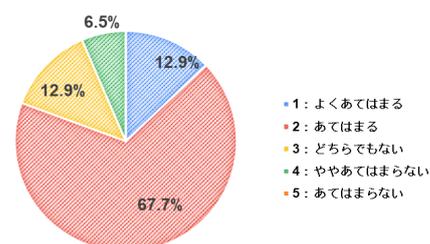
問 7. どのような教養教育が社会に出た後に役立つと思いますか。ご意見を自由にご記入ください。

- ・ 保護者対応について
- ・ 判断力、自己表現
- ・ 発達心理
- ・ 年齢層幅広くのコミュニケーションスキル
- ・ 人間性、社会性、協調性など保育以外のところが1番大事だと思う。実際現場に出れば保育の知識は現場で学べる、それより前のことを大学で学んで欲しい。
- ・ 情報 PCの基本的な扱い方について（Word、Excel、PowerPoint）。PCなしでは仕事ができないと言って良いほど、日々PCで月案や日案、おたより等を制作しています。Word、Excel等の基本的な扱い方をしっかり習っておいてよかったです。また、短大時代にブラインドタッチを習得できて良かったと強く感じています。できるか否かで制作スピードに大きく差が出ると思います。
- ・ 社会人としての自覚、マナー
- ・ 実習
- ・ 思考と判断、想像すること
- ・ 子どもの起きやすい怪我や病気等の知識を学ぶとより良かった。
- ・ 外国語
- ・ 一般常識、掃除の仕方、挨拶
- ・ より踏み込んだ、英語等の語学
- ・ エクセル、ワード、ICT機器、ピアノ、英語

〈専門力（専門に関する基本的な知識、技能）について〉

問 8. 教育・保育に必要な教科・保育内容に関する知識・技能は役立っているか。

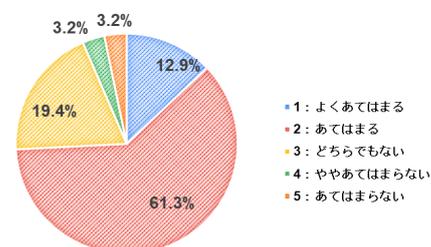
回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	4	12.9%
2：あてはまる	21	67.7%
3：どちらでもない	4	12.9%
4：ややあてはまらない	2	6.5%
5：あてはまらない	0	0.0%



- 1：よくあてはまる
- 2：あてはまる
- 3：どちらでもない
- 4：ややあてはまらない
- 5：あてはまらない

問 9. 教育・保育の本質や目的、基礎理論や教職の意義は役立っているか。

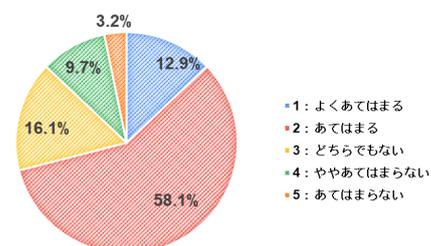
回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	4	12.9%
2：あてはまる	19	61.3%
3：どちらでもない	6	19.4%
4：ややあてはまらない	1	3.2%
5：あてはまらない	1	3.2%



- 1：よくあてはまる
- 2：あてはまる
- 3：どちらでもない
- 4：ややあてはまらない
- 5：あてはまらない

問 10. 教育・保育の対象である子どもの成長・発達、保健、栄
どの知識・技能は役立っているか。

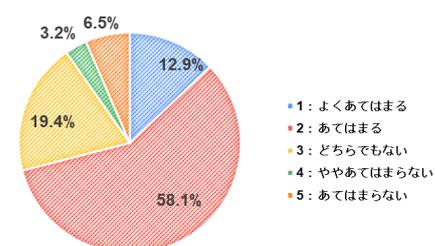
回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	4	12.9%
2：あてはまる	18	58.1%
3：どちらでもない	5	16.1%
4：ややあてはまらない	3	9.7%
5：あてはまらない	1	3.2%



- 1：よくあてはまる
- 2：あてはまる
- 3：どちらでもない
- 4：ややあてはまらない
- 5：あてはまらない

問 11. 教育・保育の指導内容や指導方法に関する知識・技能と思考力・判断力・表現力は
役立っているか。

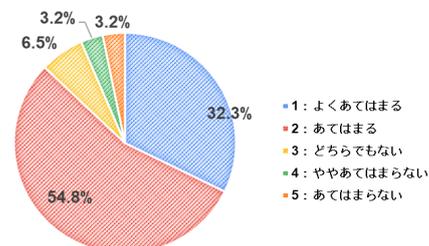
回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	4	12.9%
2：あてはまる	18	58.1%
3：どちらでもない	6	19.4%
4：ややあてはまらない	1	3.2%
5：あてはまらない	2	6.5%



- 1：よくあてはまる
- 2：あてはまる
- 3：どちらでもない
- 4：ややあてはまらない
- 5：あてはまらない

問 12. 教育・保育の実際のある場である園・学校及び施設での実習により、総合的に修得した知識・技能と思考力・判断力・表現力は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	10	32.3%
2：あてはまる	17	54.8%
3：どちらでもない	2	6.5%
4：ややあてはまらない	1	3.2%
5：あてはまらない	1	3.2%



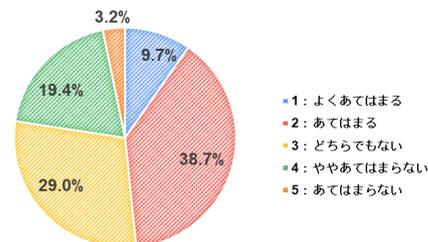
問 13. 実社会での経験を踏まえて学生時代を振り返ったときに、有意義だったと思う専門科目の授業がありましたらご記入ください。またその理由をご記入ください。

- ・ ピアノ
- ・ ピアノ、レクリエーション：理由：どちらも園で毎日のように行っており、学生時代にたくさん引き出しを持っておくことでより子どもが喜ぶ保育ができるため。”
- ・ ピアノ。授業をサボりがちだったので、もっとやっておけばな～と思った。
- ・ 子どもの健康：子どもが怪我をした場合など実践的に使えた
- ・ 実際に体験して覚える授業の方が内容を今でもハッキリ覚えています。
- ・ 実習 指導法
- ・ 障害児保育 より専門的で新しい知識を学んでいたんだと卒業してから実感しました。実際現場で働くと、そう言ったお子さんも多く、どのような関わりが大切かなど、今でも続けて勉強できています。
- ・ 障害児保育 実際に担任をもつと難しいことがたくさんある。
- ・ 心理学
- ・ 人形劇研究会での時間。理由は授業では学べないことをより深く学ぶことができ、実際に保育園やこども園、施設などに足を運ぶ機会を多くあったから。
- ・ 全くなし。障害の子に関しては就職して一からだった。
- ・ 体育
- ・ 発達心理学 子供の心に寄り添う糧になった。
- ・ 保育相談支援 保育士になってから1ヶ月経とうかという頃に保護者の方から相談を受け、保育士歴は関係ないのだと驚きました。講義を受けていたことで、上司への報連相や勝手に自論を語ってしまわないこと、伝えるときの順序や口調など気をつけるべきことがわかった上で対応できました。様々な事例をもとに保育士としての在り方や返答を考える講義は非常に役立ちました。
- ・ 保育内容環境：実習以外で実際に保育園へ行き子どものかかわりを知ることができた。

〈汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）について〉

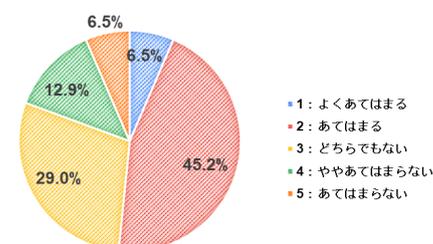
問 14. 【思考力】論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	3	9.7%
2：あてはまる	12	38.7%
3：どちらでもない	9	29.0%
4：ややあてはまらない	6	19.4%
5：あてはまらない	1	3.2%



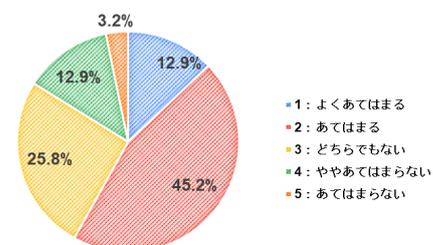
問 15. 【実行力】組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	2	6.5%
2：あてはまる	14	45.2%
3：どちらでもない	9	29.0%
4：ややあてはまらない	4	12.9%
5：あてはまらない	2	6.5%



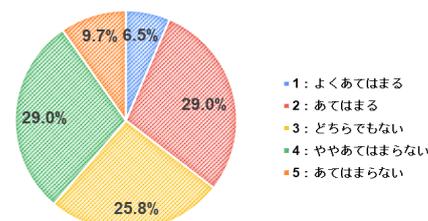
問 16. 【表現力】自分の考えを的確に文章或いは口頭で表現する力、場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、コミュニケーション力は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	4	12.9%
2：あてはまる	14	45.2%
3：どちらでもない	8	25.8%
4：ややあてはまらない	4	12.9%
5：あてはまらない	1	3.2%



問 17. 【情報力】我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心をもち、図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力は役立っているか。

回答番号	回答数	割合
1：よくあてはまる	2	6.5%
2：あてはまる	9	29.0%
3：どちらでもない	8	25.8%
4：ややあてはまらない	9	29.0%
5：あてはまらない	3	9.7%



問 18. 実社会での経験を重ねた今、社会人として必要だと思うもの、短大時代に身につけておけば良かったこと、在学生に身につけて欲しいこと等について、ご意見を自由にご記入ください。

- ・ ICT 機器の活用法（パソコンだけでなく、TV との繋げ方や様々な端末の扱い方等）
- ・ LGBTQ など多様な性について学んでおきたかった
- ・ アルバイトをしてみたりボランティアに行き色々な社会に出て実際に様々な人と関わること。又、お便りなど作る際に必要な技術としてパソコンの基本的な作業をする力。など
- ・ コミュニケーション能力。職業柄、人との繋がりがとても大事になってくるので学生の中に色々な研究会に入ったり、友達の輪を広げていくことで、先輩保育士とも良好な関係を築きやすくなる。
- ・ コミュニケーション能力、文章力
- ・ ピアノ。誤魔化しがききません。弾けないと本当に困ります。私は社会人 1 年目に必死で練習してやっと主旋律は初見でも弾けるようになりました。今でも家に帰ってピアノを練習をする日々です。子どもたちと楽しく歌うためにも今のうちに習得した方が良いです。やることはピアノだけではないので、練習しながらも時間ももったいないと感じることも多々あります。
- ・ ピアノ。子どもの発達の特徴、種類など。
- ・ ピアノなどは課題曲に追われず、現場で使われている曲をもっとしたら良かったと思う
- ・ 一般的な礼儀や常識
- ・ 基本的なマナー、挨拶
- ・ 敬語の正しい使い方、電話対応
- ・ 子どもへの細かい対応
- ・ 社会人としての自覚、マナー。挨拶のできない実習生が多いです。また、学ぶ姿勢を感じられないと思う時もありました。学生の頃から社会人になる自覚が芽生えるような講義や、初対面の学生同士ともディスカッションができるような能力を身につくような授業内容が多くあると現場に出て強いと思います。
- ・ 手遊び、ピアノがもっとできるとよかった。
- ・ 常識、人間力、自主性
- ・ 全く仕事の役に立ってない。デイの仕事をしてる人はみんなそう思っている
- ・ 判断力、見通し、行動力、連絡帳の書き方、連絡帳での伝え方など。保護者対応。かみつきなどのトラブル時の対応+保護者への伝え方など。
- ・ 保育士としての知識をもう少し深く勉強しておけばよかった。
- ・ 保育者として、しか勉強してこなかったから、短大卒としての一般常識がもう少し欲しかった。

問 19. その他、ご意見ご要望などございましたらご記入下さい。

- ・ 社会人って想像してたよりが大変だったが、たのしいこともたくさんあり、よかったなと思いながら今働くことができています！
- ・

「別府大学短期大学部アセスメント・ポリシー」に基づく卒業生・雇用主アンケートの結果による DP 達成度評価

「卒業生・雇用主アンケート」の結果による DP 達成度評価実施要領

令和元年 6 月 12 日
短大企画運営会議

目的

別府大学短期大学部「アセスメント・ポリシー」では学修到達状況の評価指標の一つに「卒業生調査による「卒後評価」」が定められている。このアセスメント・ポリシーに基づき、「平成 30 年度卒業生・雇用主アンケート」の結果から DP 達成度を評価し、現在の教育・研究内容の課題を明らかにすることを目的とする。

実施方法

- (1) 「平成 30 年度卒業生・就職先アンケート」の結果を踏まえ、各学科の DP 3 領域 15 項目（教養 5 項目、専門 6 項目、汎用 4 項目）について、それぞれ 4 段階で到達度を評価し、その判断理由を 200 字程度で記入する。
- (2) 4 段階の評価基準は次の通りとする。

評価	評価の基準
4	DP の達成度が 80%～100%
3	DP の達成度が 60%～80%
2	DP の達成度が 40%～60%
1	DP の達成度が 40%以下

- (3) DP 到達度の評価は、1 項目を 2 名以上の教員で評価することとし、また、出来るだけ多くの教員で分担して実施する。
- (4) 3 領域（教養、専門、汎用）毎に達成度及び前回評価結果からの改善についての総評を 200 字程度で記入する。
- (5) DP 到達度評価は評価用紙に記入する。各学科で評価結果をとりまとめて学科長が学長補佐（教務担当）に提出する（7 月 26 日（金）を〆切とする）。

評価結果の集約

各学科の DP 到達度評価結果は学長補佐（教務担当）が集約する。

評価結果の報告

全体の評価結果は学長に報告した後に短大企画運営会議で報告する。

別府大学短期大学部アセスメント・ポリシー

平成 30 年 9 月 12 日
別府大学短期大学部学長裁定

1. 目的

別府大学短期大学部は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、厳格で客観的・公正な成績評価を行ない、かつ、成績評価を含めた複数の方法で学生の学修到達状況を多角的・総合的に評価することによって、教育の質の向上及び教育の質の保証を行う。

2. 成績評価

別府大学短期大学部は、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、シラバスに明示した授業の到達目標及び評価方法並びに学科履修規程に明記された成績評価の区分によって、厳格で客観的・公正な成績評価を行う。

3. 成績評価を含めた多角的な学修到達状況の評価

別府大学短期大学部は、2. の成績評価に加え、ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーに基づき、各学科・課程等（学位又は教育プログラム策定単位）を基本に、その学修内容等に応じ、下記から選択した複数の方法で学生の学修到達状況や達成すべき質的水準を多角的・総合的・客観的に検証（測定）・評価する。このことによって、ディプロマ・ポリシーを起点としたPDCAサイクルを回し、授業内容、授業方法、評価基準、カリキュラム、入学者選抜などについて改善を図るとともに、ディプロマ・カリキュラム・アドミッションの各ポリシーについて必要な見直しを行う。さらに、学修成果(到達目標)の達成度評価を集約し、別府大学短期大学部全体の学修成果の達成状況进行评估する。

- ① ポートフォリオ学修支援システムでの「学生による評価」
学生自身が、ポートフォリオ学修支援システムを利用して、学修成果(到達目標)の達成度を自己評価する。
- ② 口頭試問での「教員による評価」
卒業時に修得することが期待される学修成果(到達目標)を、発表または口頭試問によって評価する。
- ③ まとめ試験による「客観評価Ⅰ」
科目区分毎に「まとめ試験」による内部アセスメントテストを行い、修得することが期待される学修成果(到達目標)について達成度を確認する。
- ④ 外部テスト等による「客観評価Ⅱ」
客観的な評価を行うために、外部テストなどを利用した学修成果(到達目標)の達成状況进行评估する。
- ⑤ 卒業生調査による「卒後評価」
別府大学短期大学部での教育への評価、職業生活や社会生活での必要な知識

と能力、別府大学短期大学部への希望などについて、卒業生への調査を行うことで、学修成果（到達目標）の達成状況を評価する。

⑥ 地元社会・産業界からの「外部評価」

在学生においては、実習先訪問や実習連絡会議等を通して、学外実習先の企業や施設などでの学生に対する評価を把握し、到達目標の達成度を評価する。卒業生においては、就職先の企業等での卒業生に対する評価を把握し、到達目標の達成度を評価する。

食物栄養科「卒業生アンケート」による DP 達成度評価

食物栄養科は、本学の定める課程を修了し、「教養」、「専門力」、「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に短期大学士(栄養学)の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

本年度の調査は、2016年度と2018年度の卒業生を対象として回答数のUPを図ったが、送付数110人のうち回答人数は20%の22人であった。昨年度調査の8人より多くはなったが、回収率は下がっており、依然として課題となった。お盆前に自宅に届くように送付する等の検討が必要である。

1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識、技能）カッコ内の数字は昨年度の評点

- (1) 短期大学の教育に必要な知識・技能と思考力・判断力・表現力などの基礎的な教養を身につけ、建学の精神及び教育目的・教育目標等を理解している。

評価（1～4）	理由
4 (4)	卒業生アンケートにおいて、86.4%が「よくあてはまる」「あてはまる」と回答しており、多くの卒業生が肯定的にとらえていた。この結果から、基礎的な教養を身につけることや、建学の精神及び教育目的・教育目標等の理解については、達成できていると考えられる。

- (2) 人間の探究や自然の摂理、社会の文化などの基礎的教養を身につけている。

評価（1～4）	理由
3 (3)	卒業生アンケートにおいて、「よくあてはまる」「あてはまる」の割合が72.8%でありDP達成度は3とした。昨年度は「よくあてはまる」「あてはまる」が62.5%で、昨年度より達成状況は10%高まった。引き続き既存の学修のなかで基礎的教養を身につけさせる必要がある。

- (3) 情報処理や外国語などの基本的なリテラシーを身につけている。

評価（1～4）	理由
3 (2)	卒業生アンケートにおいて、「よくあてはまる」が27.3%、「あてはまる」が40.9%であり、68%の卒業生が情報処理や外国語などの基本的リテラシーを身につけていると感じている。昨年度調査と比較すると18%程の高まりは見られるが、基本的リテラシーの修得を意識した授業を引き続き推進する必要がある。

(4) 運動と健康維持・増進などの活動を実践する基本的な技能を身につけている。

評価 (1～4)	理由
3 (2)	「よくあてはまる」「あてはまる」は 63.7%で DP 達成度は 3 である。昨年度は「よくあてはまる」「あてはまる」の合計評価が 50% だったのでかなり高くなった。栄養士にとって健康や生活活動としての運動を実践する基本的知識と技能を身につけていることは、健康維持や生活習慣病対策の上で重要であるため、保健体育の重要性を既存の科目の中でさらに高めていくことが必要である。

教養 (人間性の形成に資する幅広い知識、技能) DP 達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

回答数が少なく、十分な評価・考察はできないが、すべて 3～4 の評価が得られ、教養力は概ね修得できていると思われる。

ただし、情報処理や外国語などの基本的リテラシーについて、卒業生の評価が分かれている状況があり、在学中の情報処理や外国語の授業に対しては、一層の工夫を進める必要もある。

また、運動と健康維持・増進などの活動について、健康問題に取り組む上での重要な課題なので、栄養士も運動に関する基礎知識をつけることは必要である。このためスポーツと栄養をコラボレートするような学習内容を取り入れるような改善を既存の科目の中で取り入れていきたい。

2. 専門力 (専門に関する基本的な知識、技能) カッコ内の数字は昨年度の評点

<社会的意義>食物と栄養・健康に関する知識や技術の社会的な意義や、食物と栄養・健康に関する知識や技術を学ぶことによって社会でどのような役割を担うことが期待されているかを明確に理解している。

<職業生活で評価される能力>食物と栄養・健康に関する専門教育を通して、職業生活等で評価される能力として、特に栄養管理や給食管理、調理の能力を修得している。

(1) 社会生活と健康について基礎的な知識を修得している。

評価 (1～4)	理由 (
4 (4)	卒業生アンケートにおいて、22.7%が「よくあてはまる」、63.6%が「あてはまる」と回答し、合計 86.3%の卒業生が社会福祉や健康管理に関する基礎的な知識および技術を概ね修得し、卒業後も役立っていると考えられる。

(2) 人体の構造と機能についての基礎的な知識とそれに関する実験の技能を修得している。

評価 (1~4)	理由
3 (3)	「よくあてはまる」「あてはまる」は、68.2%であったのに対し、「どちらでもない」が22.7%、「ややあてはまらない」が9.1%であり、約32%が否定的な回答であった。人体の構造と機能についての学習内容は、栄養士の専門職に就職するか一般職に就職するかで、その必要性が大きく変わってくる。回答者の職種の半数が栄養士、残りの半数が一般職であったことが結果に影響していると思われる。

(3) 食品と衛生についての基礎的な知識とそれに関する実験の技能や調理技術を修得している。

評価 (1~4)	理由
4 (3)	卒業生アンケートにおいて、45.5%が「よくあてはまる」、40.9%が「あてはまる」と回答し、合計86.4%の卒業生が食品と衛生に関する基礎的な知識および技術を概ね修得し、卒業後も役立っていると考えられる。概ね知識と技術の修得は出来ていると考えられるが、卒業生の13.6%が「どちらでもない」と回答していることから、食品と衛生に関する基礎的な知識は栄養士として修得すべき必須項目であるため、より指導を充実させていく必要がある。

(4) 栄養と健康についての基礎的な知識とそれに関する実験の技能や調理技術を修得している。

評価 (1~4)	理由
4 (4)	36.4%が「よくあてはまる」、50.0%が「あてはまる」と回答し、栄養士、一般職の別を問わず、回答した多くの卒業生が栄養と健康に関する知識や技能・技術を修得し、卒業後に役立っていることがわかった。

(5) 栄養の指導についての基礎的な知識とそれに関する実践的な技術を修得している。

評価 (1~4)	理由
3 (3)	31.8%が「よくあてはまる」、40.9%が「あてはまる」と回答し、合計72.7%の卒業生が栄養の指導に関する知識や技術が役立っていることがわかった。一方、27.3%が「どちらでもない」と回答していることも見逃せない。栄養の指導についての学習内容は、栄養士の専門職に就職するか一般職に就職するかで、その必要性が大きく変わってくる。栄養士で就職した者は、概ね知識および技術が修得でき役立っていると考えられる。

(6) 給食の運営についての基礎的な知識とそれに関する実践的な技術を修得している。

評価 (1～4)	理由
4 (3)	45.5%が「よくあてはまる」、40.9%が「あてはまる」と回答している。また、「どちらでもない」と回答した割合は13.6%と低い。 給食の運営に関する基礎的な知識および実践的な技術は概ね役立っていると思われる。学校で学んだことがすぐ仕事につながらず、現場を経験しながら習得していくことが多い分野と考えられるが、基礎的事項は学校で理解ができるよう指導していかなければならない。

専門力 (専門に関する基本的な知識、技能) DP 達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

専門力の評価については、卒業後に栄養士で就職したか一般職で就職したかによって結果が大きく変わってくるので分析は困難であるが、卒業生の大半が専門に関する知識・技能は修得できていると評価された。各項目について3～4の評価であり基礎的な専門力は概ね修得できていると考えられる。

3. 汎用力 (社会で活躍できる汎用性のある能力) カッコ内の数字は昨年度の評点

(1) 思考力

論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力を身につけている。判断力、創造力、企画力などを含む。

評価 (1～4)	理由
3 (3)	「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合が卒業生は77.2%であった。大学で身につけた「思考力」が社会でほぼ役立っていると考えられる。 ただし、卒業生の22.7%が「どちらでもない」「ややあてはまらない」と回答しており、自ら考える思考力、実践力を学生時代に養い、社会に出たときにすぐに活躍できる人材を育成していくことは必要と考える。

(2) 実行力

組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力を身につけている。主体性、協働力、傾聴力などを含む。

評価 (1～4)	理由
3 (3)	「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合が68.2%、「どちらでもない」「ややあてはまらない」が27.3%であった。大学で身につけた「実行力」が社会である程度役立っていると考えてもよいのではないかと考えるが、3割程度の卒業生は、組織などで力を発揮できていないようである。実習、研究会などを通して目標を達成するための実行力を身につけていく必要がある。

(3) 表現力

自分の考えを的確かつ巧みに文章或いは口頭で表現することができる。場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、豊かなコミュニケーション力を身につけている。発信力、日本語力、外国語力などを含む。

評価 (1～4)	理由
3 (3)	「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した合計の割合は 68.2% であり、7 割弱の卒業生が表現力を身につけていると回答している。自由記述では社会人として必要だと思うこととして「コミュニケーション力」を挙げている文章も見られるため、授業などを通じて学生の表現力のさらなる向上を促していく必要がある。

(4) 情報力

我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心を持ち、図書や ICT 機器を用いて必要な情報を収集できる力を身につけている。情報収集分析力、PC スキルなどを含む。

評価 (1～4)	理由
2 (2)	「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合は 37.5%、「どちらでもない」と回答した割合も同様に 54.6%と低い値となった。今後は PC を用いた授業などを中心に、情報収集や分析などを行う際の ICT 機器のより具体的な活用方法などを学生が修得できるように大幅な改善が必要である。

汎用力 (社会で活躍できる汎用性のある能力) DP 達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

前回評価より結果が下がった項目はなかったが、思考力、実行力、表現力については社会で活躍できる概ね修得できていると思われる。

しかし、情報力については、前回調査同様に評価よりも低く、「2」の評価になった。PC を活用した情報系の授業のみでなく、栄養士の専門科目においても、正しい情報を収集し栄養教育していくために情報収集分析力は重要であることから、図書や文献の検索方法、活用方法を指導していくことが強く求められる。

初等教育科「卒業生アンケート」による DP 達成度評価

初等教育科は、本学の定める課程を修了し、「教養」「専門力」「汎用力」の3つの力を身につけたと認められる学生に、短期大学士(教育学)の学位を授与する。学修にあたっては、建学の精神「真理はわれらを自由にする」に基づき、学問を通して真理を探究し、確かな知識を修得することによって、独立した主体的な人間となることを基本的な目標とする。

本年度の調査は、2016年度と2018年度の卒業生を対象として回答数のUPを図ったが、送付数343人のうち回答人数は9%の31人であった。昨年度調査の7人より多くはなったが、回収率は下がっており、依然として課題となった。お盆前に自宅に届くように送付する等の検討が必要である。

1. 教養（人間性の形成に資する幅広い知識・技能）

カッコ内の数字は昨年度の評点

- (1) 短期大学の教育に必要な知識・技能と思考力・判断力・表現力などの基礎的な教養を身につけ、建学の精神及び教育目的・教育目標等を理解している。

評価（1～4）	理由
3 (3)	「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合の合計は74.2%であった。十分とは言えないが7割を超えており、基礎的な教養を身につけ建学の精神及び教育目的・教育目標をほぼ達成できていると考える。

- (2) 人間の探究や自然の摂理、社会の文化などの基礎的教養を身につけている。

評価（1～4）	理由
3 (3)	「よくあてはまる」「あてはまる」と回答した割合の合計は約6割であり教養教育にかかわる質問の中で比較すると満足度は低い。しかしあてはまるが51.6%であり、概ね身に付けていると言える。この分野については普段の保育・教育や生活の中で意識する機会が少ないため、役立っているという実感が若干薄いと思われる。

- (3) 情報処理や外国語などの基本的なリテラシーを身につけている。

評価（1～4）	理由
2 (3)	「よくあてはまる」「あてはまる」回答した割合の合計は6割弱であった。情報処理等の能力は職場での必要性も高まっていると思われるため、さらなる充実した指導が必要である。自由記述には大学での学びがプラスであったと記されているため、個人差もあると思われる。

(4) 運動と健康維持・増進などの活動を実践する基本的な技能を身につけている。

評価 (1～4)	理由
2(4)	運動と健康維持・増進活動の実践技能については、「よくあてはまる・あてはまる」の回答が 51.7%と昨年に比較してかなり低かった。また、「ややあてはまらない」という回答が、2 割弱あったことから、職業人として健康維持や増進活動における健康管理に課題がある。
教養 (人間性の形成に資する幅広い知識、技能) DP 達成度及び前回評価結果からの改善についての総評	
今回のアンケートでも回答数が十分ではないため個人差が見られる。さらに、コロナ禍の取り組みの影響も少なからずあると思われる。そのため、昨年度の調査結果より評価が低かった。「人間の探究や自然の摂理、社会の文化などの基礎的教養」「情報処理や外国語などの基本的なリテラシー」「運動と健康維持・増進などの活動を実践する基本的な技能」の指導内容や方法については積極的に見直し・改善する必要がある。	

2. 専門力 (専門に関する基本的な知識・技能及び態度)

<社会的意義>

教育学のもつ社会的な意義や、教育学を学ぶことによって現代社会の中でどのような役割を担うことが期待されているかを明確に理解している。

<職業生活で評価される能力>

教育学の専門教育を通して、職業生活で評価される能力として、特に教育・保育に対する強い情熱、確かな指導力と総合的な人間力を身につけている。

(1) 教育・保育に必要な教科・保育内容に関する知識・技能を修得している。

カッコ内の数字は昨年度の評点

評価 (1～4)	理由
4(3)	卒業生アンケートにおいては 80%が「よくあてはまる・あてはまる」と回答しており、満足度はほぼ高いと言える。保育に必要な情報や知識技能は概ね習得できていると言える。

(2) 教育・保育の本質や目的、基礎理論や教職の意義を修得している。

評価 (1～4)	理由
3(3)	卒業生アンケートでは、74%が「よくあてはまる」「あてはまる」と回答しており、満足度はほぼ高いと言える。あてはまるという回答が 6 割を超えていることから、大学での保育・教育の基礎理論については習得できていると言える。

- (3) 教育・保育の対象である子どもの成長・発達、保健、栄養、そして家庭での生活などの知識・技能を修得している。

評価（1～4）	理由
3 (4)	子どもの成長・発達、保険、栄養、生活の知識や技能について 71% の卒業生が「よくあてはまる・あてはまる」としている概ね知識技術の習得ができていると判断するが、昨年度より評価が下がっている。

- (4) 教育・保育の指導内容や指導方法に関する知識・技能と思考力・判断力・表現力を修得している。

評価（1～4）	理由
3 (3)	「よくあてはまる」「あてはまる」と修得しているとの評価が 71% であり、昨年度調査とほぼ同様の結果である。自由記述では、有意義だった授業に「ピアノ」「障がい児保育」「保育相談支援」等いくつかの意見もあり、修得に関して満足度は高い。

- (5) 教育・保育の実際の場合である園・学校及び施設での実習により、知識・技能と思考力・判断力・表現力の総合的に修得している。

評価（1～4）	理由
4 (3)	卒業生では、よくあてはまる・あてはまるが 87% であり、学生の満足度は高い。引き続き実習指導の充実を図っていきたい。

専門力（専門に関する基本的な知識、技能）DP 達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

専門力に関する取り組みについて、すべての項目で 3～4 の評価であった。卒業生の回答は非常に良好で、専門力の修得に関して満足度が高い。引き続き、本学の専門力の修得については、能動的に学ぶことができるような授業を行う学習方法等を取り入れるなど、主体性を重んじた体験的・実践的な方法を取り入れた授業展開が必要と思われる。

3. 汎用力（社会で活用できる汎用性のある能力）

(1) 思考力

論理的に考え分析する能力、常に自らの学びを省察し課題を見つけて改善することができる能力を身につけている。判断力、創造力、企画力などを含む。

カッコ内の数字は昨年度の評点

評価（1～4）	理由
2 (3)	「あてはまる」「ややあてはまる」が約 50% であり「あてはまらない」と回答したのが見受けられる。現場としては社会で活躍できる汎用性のある能力を兼ね備えた人材が求められている現状の中、評価が下がったことに対する取り組み強化が必要である。

(2) 実行力

組織での活動においてリーダーシップを発揮するとともに、他者と協調しながら目標を達成する力を身につけている。主体性、協働力、傾聴力などを含む。

評価（1～4）	理由
2 (3)	卒業生アンケートでは「よくあてはまる」「あてはまる」が52%と低い値であった。組織でのリーダーシップについては経験年数からその機会が少ないと思われる。

(3) 表現力

自分の考えを的確かつ巧みに文章或いは口頭で表現することができる。場面にふさわしい言葉遣いやマナー、振る舞い、豊かなコミュニケーション力を身につけている。発信力、日本語力、外国語力などを含む。

評価（1～4）	理由
3(3)	卒業生アンケートの評価結果は、「あてはまる」「ややあてはまる」が約60%と低い。コミュニケーションが必須の職業であり、外国語力という視点では役立っている実感が少ないと思われる。

(4) 情報力

我が国のみならず国際的な動向や問題に幅広い関心を持ち、図書やICT機器を用いて必要な情報を収集できる力を身につけている。情報収集分析力、PCスキルなどを含む。

評価（1～4）	理由
2 (2)	1：よくあてはまる、2：あてはまると回答した者は、約36%であり、評価が低く汎用力においてもっとも低い。国際的動向に関心を持つ機会の少なさが理由の一つと考えられる。在学中より幅広い視点から興味関心を持ち、情報収集し、関連づけられる態度やスキルの向上について強化する必要がある。また自由記述の中に身に付けておけばよかったという記述もあるため学生へ伝えていく必要性があると思われる。

汎用力（社会で活躍できる汎用性のある能力）DP 達成度及び前回評価結果からの改善についての総評

汎用力の育成についてはいずれも評価2がみられ低い値である。特に情報力においては他の調査項目の結果も鑑みて、改善に努める必要性が高い。情報力と国際的動向への関心についてはICTの積極的活用と海外研修の工夫や促進を図り、海外の学生との交流なども取り組んできたが、さらに内容等の検討を図り、幅広い視野を身に付けていかなければならない。自由記述にある、身に付けておけばよかったという表現や情報に関する表記が見られるため、在学時に学ぶべきことを学生へ伝えていく必要性が強く感じられた。